

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。（配点35点）

「みんなと同じがいい」、僕たちはよくそう思う。そう思ったとき、僕たちは間違いなく大衆になっている。

「みんなと同じがいい」という思想には二つの特徴がある。一つは、「同じがいい」という心のあり方（心性）である。大衆社会とは、平等などという言葉が生ぬるく聞こえるほど、恐ろしく均質化した社会である。だから、人々は他人と違うことを極度に恐れる。しかし、だからといって他人とまったく同じでは満足できないのである。1 「みんなと違う自分でありたい」という心性も、大衆の特徴である。だが、この「みんなと違う自分でありたい」という欲望は、自分はいつでも「みんなと同じ」にはなれるのだという前提があつてはじめて意味を持つ。「みんなと違う」とは、「みんな以下」ではなく「みんな以上」を意味しているのだ。それに、「みんなと違う自分でありたい」とは言っても、「みんなとまったく違う自分」になりたいなどと思っているわけではない。「みんなと同じ」の中に隠れながらも、「みんなよりチョットだけ違う自分」を手に入れたいのだ。

大衆とは劣等感と優越感が入り交じったかくもデリケートで扱いにくい存在なのである。グッチやプラダやヴィトンといったブランド品の存在は、この「みんなと同じで、みんなと違うのがいい」という大衆特有のねじれた心性をみごとに捉えている。プラダのバッグを持つことでほんのちよつとだけ「みんな以上」になれる感じがする。でも、2 「みんな」がプラダにまったく関心を持っていなければ意味がないのだ。「みんな」が「これプラダだね。カッコイイね！」³と言ってくれなくては意味がないのだ。（中略）

「みんなと同じがいい」という思想のもう一つの特徴は、大衆には「みんな」³が見えているところにある。どのようにしてか。もちろん、マスメディアによる情報によってである。この特徴からは、マスメディアによって操作されやすい愚かな人々という大衆像が浮かび上がってくる。受動的存在であることは大衆の特徴の一つであると考えられてきた。マスコミ関係の職業に就く人の（みんなではないが）多くが傲慢なのは（僕にはそう見える）、彼らがこういう大衆観を持っているからに違いない。【A】

なぜ大衆がマスコミに操作されやすい受動性を持つのかと言えば、近代になって、神に死が宣告され、共同体が崩壊し、人々が孤立化、断片化したために、自らの価値観を持てなくなった個人が他人を真似るしかなくなったからだ、社会学では説明するよう

だ。リースマンというアメリカの社会学者は、大衆とは他人志向型の人間だと言っている。これが、「他者の視線の内面化」にいたるプロセスである。【B】

一つ注意しておくべきことは、大衆は群衆とは違うということだ。人々が群衆になるためには、実際にある空間に多くの人が集まる必要があるが、極端に言えば、マスメディアの発達した現代では、⁴地方にぽつんと住んでいても大衆にはなれる。大衆とは「みんなと同じがいい」という心性を持った人のことだからである。これからはインターネットの普及によって、孤立した大衆が大量に出現する可能性がある。【C】

こうしてみると、大衆が近代の申し子であることがよくわかるだろう。同じものを大量に生産できる工業がなければ、そもそも「みんなと同じがいい」という大衆特有の欲望は生まれなかつただろうし、マスメディアが発達しなければ、【X】的な他者を

「みんな」というある程度【Y】性を帯びた人間に仕立て上げることができなかつただろうからである。【D】

もっとも肝心なことは、僕たちが大衆でいられるのには少なくとも二つの前提があるということだ。一つは、普通選挙制度によって、どんな人でも成人でありさえすれば政治的に一票を与えられること。二つは、大衆の購買力の増大によって、大衆消費社会が成立していることである。つまり、大衆は政治的にも経済的にも社会の主役であり得るということだ。だから、現代では大衆は単純に操作できるような受動的な存在ではなくなってきた。しかし、その大衆の顔は大衆自身にも見えない。大衆を代表する政治家やマスコミに、おぼろげながら大衆の顔が映し出されているだけである。僕たちは、主役の顔の見えない社会に生きているのである。だが、それが民主主義における健全さなのだと、僕は思う。【E】

(石原千秋『教養としての大学受験国語』による)

問6

空欄

X

・ Y

に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア X 外面 Y 内面

イ X 抽象 Y 具体

ウ X 能動 Y 受動

エ X 一般 Y 特殊

問7

筆者が考える「大衆」像に合致しないものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア マスメディアの発する情報に操作される受動的な存在。

イ 政治的にも経済的にも社会の主役の位置を占める存在。

ウ 劣等感と優越感で揺れ動くデリケートな心性を持つ人々。

エ マスメディアや大衆消費社会の発達によって生じた人々。

第2問

次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。（配点40点）

京都で、ホウモン^①先のお宅でさて帰ろうかという時に、そこのご主人に「ぶぶ漬けいかが？」と言われ真に受けたらどうなるか——有名な「ぶぶ漬け伝説」はご存じですよ。では、ご近所さんから次のように話しかけられた時の正しい答えは？

「お宅のお坊ちゃん、ピアノ上手になりましたね」¹

「いや～それほどでも♡」は不正解！そう、正解は「ご迷惑をおかけしています」。

このように大人は、直接コトバにすると角が立ってしまいそうなメッセージでも上手にやりとりする術を持っています。人類はそれを発達させすぎてしまったのでしょうか、私たちの周囲には「コトバの意味そのまま」でないやりとりが満ちています。だけど、子どもたちは果たしてそうした術を使いこなせているのでしょうか。

子「今日コンビニ行く？」

母「今日は買うものないんだよ」

子「…今日コンビニ行く？」

これは、コンビニに行きたい K太郎²（三歳）です。大人だったら、「今日は買うものがないんだよ」と相手が答えれば、「だから行かないんだ」と答えているのと同じだと理解するところですが彼にとっては「行く？」と尋ねた以上、「コンビニには行かないんだよ」と言ってもらえない限り、質問に答えてもらったことにはならないのですね。

子どもの言語習得の研究では、「直接的な表現」を理解した後の段階としてはじめて、ことばの表面的な意味とは異なる間接的な表現を理解する段階に達すると言われています。そうした間接的な表現を子どもは何歳ごろから理解できるのか、という問いに関しては、多くの言語で昔からたくさんさんの調査がなされてきましたが、おおむね、七歳ごろになると大人と同じような理解ができる子が多くなると言われています。七歳より前では、「三歳でも間接的な表現が理解できる」「いや、四～五歳までは難しい」「五歳でも難しい」などいろいろな ホウコク^②があります。具体的にどのような表現を対象に、どのような方法で調べているかによって、結果が

ばらついているようです。

こんどは、先ほどのK太郎が、六歳になってからの会話です。

子「もうたまごやき、こんなに食べられない」

母「じゃあ他のおかずはぜんぶ食べなさい」

(そのすこしあと)

母「じゃあそのたまごやき、半分だけ食べて」

子「たまごやきは食べなくてもいいって言ったじゃん！」

母はたまごやきは食べなくていいなんてひとことも言ってませんが……。子どもは全体の流れ（とくに、「じゃあ××は食べなさい」との対比）から、たまごやきは食べなくていいという間接的なメッセージを（都合よく）見いだしていますね。やるじゃないか六歳児と言いたいところですが、まあ世の中そんなに甘くない、しっかり完食させました。とはいえ、「この子の解釈も一理ある……よな……」と思ってしまう母でした。

ことばによる表現が、直接的な、ことば通りの意味だけでなく、間接的に別の意味を伝えることによって、話し手にとっては使える表現の幅が広がることになります。だけど、X にとってはどうでしょう。今のY の表現が、ことば通りの意味なのか、あるいはそうでない、間接的な解釈が求められているのか、どのように区別すればいいのでしょうか。

言語学でいうとこれは「語用論」という分野の問題です。ことばの知識の「実践編」といったところでしょうか。

語用論の入門書で必ず言及されるポール・グライスという哲学者・言語学者は、文字通りの意味でない表現がうまく伝わるためのよりどころとして、人間はある一定の相互理解のもとに、コミュニケーションを行っているとしています。この「グライスの会話の公理」とよばれているものを、次に自己流で思い切って短くまとめてみました。

原則として、人間が相手に対して何か言うとき、話し手と聞き手が共有している目的（情報の共有や交換）を達成しようと会話するものである。なので、求められているだけの情報量に意図的に過不足をもたらすことなく（量の公理）、意図的に間違った

ことは言わず（質の公理）、話題との関連性からいたずらに逸脱することもなく（関係の公理）、意図的にわかりにくい表現をあえて用いることもない（様態の公理）と、お互いに期待してよい。

逆にいうと、これらの点のいずれかにおいて何らかの明らかな逸脱がある場合、それには根拠がある、と解釈されます。つまり、文字通りの表現以外の意味をそこに見いだしたほうがいいぞ、というヒントであることが、人間の知識には織り込み済みだということです。³ 就職活動中の学生のために書かれた推薦状が、面白い人格とサークル活動の話で終始していたら、学業は優れていないことが、そう書かれていなくても伝わりますし、何か追及されてことばを濁したり話題をはぐらかそうとしたりする行為だけで、やましいことがあるのだとほぼ伝わってしまうことはご存じのとおりです。

それでは、クイズ。右の「量の公理」に関するものです。⁵ サイフの中に五〇〇円持っている人が、「ボク一〇〇円持っているよ」と言ったとしたら、この発言は正しいですか、おかしいですか。

答えは、論理的に言えば正しい（五〇〇円持っているということは、一〇〇円持っていることを含む）が、語用論的にはおかしい（量の公理に違反）、です。普通、「一〇〇万円あります」と言われたら、二〇〇万円はないんだな、と理解しますよね。大人であれば、よっぽど特殊な状況でない限り、普通は「語用論」的に解釈して、たとえば今のクイズには「おかしい」と答えます。ここでの判断の根拠をとくに「尺度推意」⁴（または尺度含意）⁴といいます。尺度関係（大小の程度の違い）がある表現において、たとえば「一〇〇円」「少し」「何人か」といった言い方を選んだ以上、それより大きな量の存在はことばの使い方の常識のうえで（つまり語用論的な計算の結果）否定されるというのが「尺度推意」です。大人はこの尺度推意を了解しているために、「一〇〇円と言ったなら二〇〇円はない」「少しと言ったからにはたくさんはない」「何人かと言うなら全員ではない」ことを読み取るのです。

（広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険——子どもに学ぶことばの秘密』による）

第3問

次の問い（問1～3）に答えよ。（配点25点）

問1 次の①～⑤の説明に当てはまる作品を、後の作品群からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

- ① 作者は兼好法師。変化していく景物に美を見出し、仏教的無常観を基軸とする随筆。
- ② 日本三大随筆の一つとされ、『源氏物語』とともに平安文学の二大傑作として並び称される。作者は清少納言。
- ③ 作者は芥川龍之介。『今昔物語集』を題材としており、「ある日の暮れ方のことである。一人の下人が」から始まる。
- ④ 最古の勅撰和歌集。後世の和歌の規範となり、日本人の美意識に大きな影響を与えた。
- ⑤ 短編小説。電車にはねられた志賀直哉が、その療養のために滞在した温泉地での体験を書いたもの。

〈作品群〉

- | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|--------|
| ア 万葉集 | イ 枕草子 | ウ 古今和歌集 | エ 徒然草 | オ 方丈記 |
| カ 羅生門 | キ 鼻 | ク 城の崎にて | ケ 伊豆の踊子 | コ 暗夜行路 |

問2 それぞれの場面に合わせて、傍線部①～⑤を正しい敬語表現に直せ。

I 【部活の新生歓迎会に先生を誘う場面】

来月の新生歓迎会に先生も来ませ^①んか。

II 【受付係が客に名簿に名前の記入を求める場面】

本日はありがとうございます。お手数ですがこちらにお名前を記入^②してください。

III 【学校の恩師に電話で挨拶する場面】

先生にはいろいろと指導^③してもらい、本当にありがとうございました。

入試が終わったら、一度ご挨拶に行きたいのですが、ご都合はいかがでしょうか。

IV 【来社した客を応接室に案内した場面】

部長の佐藤は、まもなく来^④るので、いましばらくお待ちください。

問3 次のア～カは、次のページにある「平成30年度 国語に関する世論調査」（文化庁）のグラフや数値を読み取ったものである。

ア 読み取れる内容として、誤っているものを二つ選び、記号で答えよ。

ア 国語に関心がある人は、関心がない人に比べて、約三倍の差がある。

イ 国語に関心がある人は、日常の言葉遣いや話し方、敬語の使い方に関心がある。

ウ 国語に関心がない人は、年々大きく増加し、日本人の国語への関心の程度がわかる。

エ 平成4年度の付問における数値は、全ての項目において、どの年度よりも高い割合を示している。

オ 平成4年度の調査結果では「文字や表記の仕方あるいは文章の書き方」についての項目が三番目に高い。

カ 国際化や情報機器が国語に与える影響よりも、言葉の意味や国語の歴史についての関心が高い。

